

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	平成23年度第3回枚方市環境審議会 地球温暖化対策実行計画検討部会
開催日時	平成24年2月24日（金） 10時から12時まで
開催場所	枚方市民会館 第3集会室
出席者	部会長：三輪委員、副部会長：増田委員 稲森委員、今田委員、田中久雄委員、田中みさ子委員、野田委員、 丸井委員、水内委員、水丸委員
欠席者	—
案件名	1. 地球温暖化対策地域推進計画に基づく取り組み状況について 2. その他
提出された資料等の名称	資料1 地球温暖化対策地域推進計画に基づく取り組み状況 参考資料1 枚方市役所CO2削減プランの平成22年度実績 参考資料2 枚方市年計画マスタープラン（概要版）
決定事項	・地球温暖化対策地域推進計画に基づく取り組み状況について 審議した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	1人
所管部署 （事務局）	環境保全部 環境総務課

審 議 内 容

<開 会>

部会長： それでは、平成23年度第3回枚方市環境審議会地球温暖化対策実行計画検討部会を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、前回の部会で議論していただきましたアンケート調査の実施状況や地球温暖化対策地域推進計画に基づく取り組み状況についてご説明いただいた上で、それらについて議論をしていきたいと思えます。それでは、事務局から本日の出席状況の報告、資料の確認等をお願いいたします。

事務局： 本日の出席委員数は10名で、枚方市環境審議会規則第4条第2項の規定に基づきまして、本部会が成立していることをご報告申し上げます。また本日の傍聴者は1名おられます。次に、本日の資料の確認をさせていただきます。
(資料確認)

<案 件>

部会長： それでは、案件1の地球温暖化対策地域推進計画に基づく取り組み状況について事務局からご説明をお願いします。

事務局： 資料のご説明をさせていただく前に、現在実施しておりますアンケート調査について簡単にご報告させていただきます。アンケート調査票につきましては、2月10日に市民2,000人、事業者200社に送付いたしました。締め切りは本日24日となっております、昨日現在ですが、回答数は約700通となっております。

部会長： アンケート調査票の作成にあたりまして、皆さんからたくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。今、ご報告がございましたように、昨日現在で約700通の回答がありました。市民と事業者にトータルで2,200通のアンケートを配布していますので、だいたい30%~35%の回答率というところですね。

事務局： 今週のはじめに、礼状兼督促状をすべての方に送らせていただきましたので、回答数はもう少し増えるとは思えます。

部会長： アンケートの締め切りは本日24日ということですが、調査結果を取りまとめるための最終的な期限は、いつごろを考えているのですか。

事務局： アンケート調査は、本日締め切りということにしておりますけれども、少し遅れるという連絡が市民の方からありましたので、この土日で書い

ていただける方もいるのではないかと思います。

部会長： わかりました。さらにたくさんのアンケートが返ってくることを期待したいところです。

それでは、資料1のご説明をお願いいたします。

事務局： (資料1について説明。)

部会長： ありがとうございます。詳細にご説明いただきましたが、これにつきまして何かご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。

委員： 1 ページ目のエネルギー起源二酸化炭素排出量の推移のグラフについてですが、平成 22 年度は点線の棒グラフで示していますけれども、原発事故による影響で 23 年度はこれまでと違う状況になると思われませんが、どのようになるのでしょうか。

事務局： 平成 22 年度以降につきましては、まだ統計資料等がすべて出ておりませんので具体的な数値をお示しすることはできませんが、23 年度は排出係数等の変動によりまして若干増加することが考えられます。

委員： 平成 24 年度の目標値は、以前に設定した目標値ということですか。

事務局： その通りです。現計画では、平成 24 年度に 17 年度の排出量から 17% 削減する目標を掲げておりまして、1990 (平成 2) 年度と同レベルにする目標となっております。排出量を算定するためのデータの公表が約 2 年遅れとなっておりますので、21 年度の排出量については、まだ速報値となっておりますが、今年の 5 月か 6 月ごろに確定する予定です。22 年度の排出量につきましては、国では速報値を公表しておりまして、本市においても、だいたい同じような傾向になるものと考えております。

委員： 2 ページのグラフでは、全体として排出量が減っているのですが、大きく減っているのは産業部門となっております。以前にも同じような話があったような気がしますが、景気の後退で減っているのか、省エネの影響で減っているのか、どのようにお考えですか。

事務局： 産業部門につきましては、全体的に省エネ化が進んでおりまして、そういった要因もあると思われませんが、景気の変動などによるエネルギー使用量の増減も大きな要因と考えられます。

3 ページに電力や都市ガスの需要量をお示ししておりますが、この需要量にそれぞれの排出係数を乗じて CO₂ 排出量を算出するということになります。したがって、CO₂ 排出量は需要量だけではなくて、排出係数にも関係してきます。

委員： 景気の変動と省エネの推進、どちらの影響が大きいのかを判断する一つの材料として、例えば、工業製品出荷額などをお示ししていただけたら、よりわかりやすいかなと思います。

事務局： CO₂ 排出量とは別に、そういったデータもお示ししていきたいと思えます。また、大阪府の地球温暖化対策の計画案では、排出係数を固定して

排出量を算出することにしておりますので、そういったやり方につきましても、今後検討していきたいと思えます。

部会長： 他の方はいかがでしょうか。

委員： 9 ページのクリーンエネルギー自動車の普及ですけれども、電気以外にクリーンエネルギー自動車にはクリーンディーゼルや CNG、ハイブリッドなどもあると思えます。

また、11 ページのスマートライフの啓発に 4R という言葉がありますが、私が小学校とか中学校に環境教育で行く場合は、たいがい 3R という言葉を使用しています。一般的に 3R がメインで使用されていると思えますので、3R で統一された方がいいのではないかなと思えます。

部会長： 今のご意見について何かございますか。

事務局： おっしゃられたように、クリーンエネルギー自動車につきましては、電気以外にもクリーンディーゼルなどいろいろございます。

3R につきましては、本市のごみ減量に向けた取り組みの中で、4R としてこれまでも進めているところでございますので、ご理解いただきたいと思えます。

委員： 全国的に 4R が主流なのですか。

事務局： 全国的には 3R が主流かもしれませんが、枚方市として独自に 4R の取り組みをしております。

委員： 大きい事業所では、4R を使っているところもあります。

部会長： 枚方市は、大阪府内の自治体と比べてごみの減量が進んでいますよね。

事務局： 一人あたりの一日のごみ量は、大幅に低い値となっています。

部会長： 枚方市の循環型社会の形成に向けた取り組みについては、個人的に非常に注目しているところがありますし、最近、4R というのを使い始めているところが増えてきているような気がします。国が 3R 運動ということを最初に打ち出したのですが、やはりごみとなるものを持ち込まないということが大事だという認識が徐々に広がっているように思えます。

副部会長： 太陽光発電が公共施設の小・中学校に導入されているということですが、今後の予定はどうなっているのでしょうか。

事務局： 小・中学校については、耐震性の問題で、すべての施設に太陽光発電を設置できるわけではありませんが、現在、小学校 8 校と中学校 1 校に設置しています。残りの小・中学校は、耐震性の問題がありますので、設置をする場合は、いろいろと検討していかなければなりません。

副部会長： 先ほど、クリーンエネルギー自動車の普及にあたって、インフラ整備だとか、高価すぎるとか、いろいろ問題があるということでしたが、温暖化対策を進めていくにあたって、おそらくいろいろな問題点があると思えます。それらの問題点をリストアップしておけば、今後、活用できるのではないのでしょうか。

部会長：	普及しにくい要因、壁をどのように取り除いたら、そこから進むことができるのかということですね。ちなみに、市内の小学校と中学校はいくつありますか。
事務局：	市立の小・中学校は全部で 64 校です。
委員：	先ほどおっしゃられたように、5 ページの「商業施設、オフィス等における省エネルギー活動の展開」というところで、商店街等に対する LED の補助件数が 9 件しかありません。「エコ」工場化の促進についても、LED の補助件数が 3 社しかありません。地球温暖化対策協議会もあることですし、こういう補助制度があるということが事業者の間でしっかりオーソライズされているのでしょうか。
事務局：	補助制度を知らない事業者の方も多いかもしいないということで、今回のアンケート調査の際に、補助制度のチラシも一緒に同封させていただきました。補助制度の要件について、もう少しハードルを下げることができないのかという意見があるようです。
部会長：	その要件も、普及に向けた壁ということになりますね。
委員：	補助制度は、グリーンニューディール基金と関係はないのですか。
事務局：	基金とは関係ありません。
委員：	補助制度があっても補助率が 3 分の 1 や 2 分の 1 の場合、初期投資が大きいと、自社負担分が大きくなり、結局、導入をあきらめるケースがあります。大阪府でも、グリーンニューディール基金で LED 照明の導入等について補助をしていますが、補助金の交付決定を受けた後で、資金繰りが厳しくなって辞退される企業もあり、なかなか思ったような形で対策が前に進んでいきません。やはり、景気も良くない中で、補助制度があるのは知っていても、自社負担分を考えると難しいという企業が多いように思います。
副部会長：	LED の導入には替え時があって、2012（平成 24）年には白熱球が生産中止になりますよね。そうすると、おそらく LED の生産が増えることにより値段が安くなるので、替え時を待っている企業もあるようです。
委員：	確かに LED に関しては、白熱球から交換するのであれば、かなり省エネになり、それに伴い電気料金も下がります。しかし、蛍光灯タイプの LED は、もともと蛍光灯の省エネ化がかなり進んでおり、省エネ効果もそれほど大きくない場合もあります。また、器具の交換などの工事必要になることがありますので、なかなか交換が進んでいないのが現状です。
委員：	私の勉強不足もありますが、先ほどの 4R もそうですし、枚方市独自の取り組みが結構あるなど思っています。最近では枚方市でも家庭菜園があちこちでやられていて、堆肥の講習会に参加している人も多くなっています。それと、公共交通活性化マップを市内転入者に毎年 1 万件程度配布されていて、私も枚方市に住んで長いのですが、初めて知りまし

た。市民共同発電所への支援として、小水力発電がありますが、枚方市でも穂谷川や船橋川で、段差になっているところでやったら非常にいいなと思います。また、S-EMS というのがありますが、あまり全国では取り組まれていないと思います。昨年度に環境基本計画の策定に向けて審議したときにスマートシティという考えがありましたが、スマートライフという言葉も出てきていますので、平成 25 年度以降の新たな計画を策定するときに、枚方市独特のもの、光りものといえますか、そういうものをもっと PR したらいいかなと思います。

先ほども補助金の話がありましたが、確かに太陽光や二重窓などいろいろ補助金があつてわかりにくいと思います。

市民の勉強不足もあり、知らないことが多いですので、そういった情報をまとめていただけたらありがたいなと思います。

部会長： 補助制度については、交通のことは交通で、環境のことは環境でというように、いろいろな部署が実施していますので、それらをまとめた補助金リストみたいなものがあれば、市民に情報がより届きやすくなるのではないのでしょうか。いろいろな部署に情報が分散しているので、市民にとってはどこにあるかが探しきれないのかなと思います。

委員： 皆さんの話をいろいろとお聞きしていて、以外と知らないことが多いんだろうなと感じています。計画の策定に向けた検討を行っていくには、私たち委員が現状をもう少し把握しとかなないと議論が前に進まないような気がします。どのような経緯で取り組みを実施していて、担当部署がどこなのか、事務局には手間をお掛けしますが、もう少し詳しい資料が必要なのかなと思います。結局、意見を言っても、もうやっているとかになっては、あまりよくないと思うので、しっかり勉強させてもらえるような資料をいただければと思います。

他のところで生物多様性の関係の仕事をやっているのですが、先ほど部会長がおっしゃられたように、そこでは生物多様性に関係している部署や事業の情報がバラバラになっているので、どこの部署がどんな事業をやつて、どんな法令があるのかという庁内アンケートを実施する予定にしています。バラバラの情報をこのようなアンケートを実施することで、まとめることはできないのかなと思います。

部会長： こういった資料を作成するために、どの部署が何をしているかについては、事務局である程度の情報はまとめて把握しているのではないのでしょうか。

事務局： ある程度は把握しています。

部会長： ですから、おっしゃられているのは、この事業はどの担当部署がどういった取り組みをしていて、どこまで進んでいるとか、もっとしっかりとした情報が欲しいということですよ。

委員：　　そうですね。それと、先ほども話がありましたが、上手くいっている理由はもちろん、上手くいっていない理由も聞くことができればいいと思います。事業が進んでいないのは、広報がきちんとできていないのか、庁内のシステムが悪いのか、あるいは横の連携ができていないのかということ把握することができれば、何をどう進めていけばいいのかが、少しは見えてくるかなというのがあります。

以前の部会で、窓口の一本化みたいなものを市民に対してはやった方がいいだろうという意見を言った記憶があって、そのあたりをもう一度見直しすることは非常に意味のある大きな視点なのかなと思います。庁内の整理と市民向けの情報の整理ということ、ちょっと大きなテーマですけど、お願いできればと思います。

部会長：　　ありがとうございます。非常に素晴らしいご提案だと思います。ちょっと意外でしたのは、アンケートをするときに「なぜできていないんですか」という聞き方をするというところが斬新なところですね。

委員：　　今まで、自分たちの部署は何となく関係ないと思っていたのが、この項目に対して何かやっていますかと具体的に聞かれて、初めていろいろと考えることができるということもあるのではないのでしょうか。

事務局：　　アンケートを実施できるかどうかは、少し難しい部分もありますが、枚方市では、個々の事業については事務事業実績測定というのを実施しておりまして、施策目標の達成に向けての実績度や今後の方向性などを把握しております。

委員：　　把握の仕方はいろいろありますので、前向きな意見として捉えていただければと思います。

委員：　　個々の事業を評価した一覧があると思いますが、事業の目的として、ここまでできたらそれでいいというのが前提にあったら、できていない理由を聞いても仕方がないと思います。少し高めの目標を掲げていたら、例えばこれを市民にもっと普及させていくためには、どうすればいいのかという視点で考えることができますよね。そうすることで、市民に全然知られていないから、知らせる方法をもっと工夫しないとイケないとかにつながっていくことになると思います。ですから、きっとどこまで行っても、市民に対して情報を知らせる方法というのは永遠の課題で、非常に難しいテーマだと思います。そこを皆さんの知恵でもって、いろんな方法でやっていかないとイケないのかなと思います。

部会長：　　ありがとうございます。非常に過激なやり方ですけど、この部会メンバーがそれぞれの事業を実施している部署に行って、「それ、どうなっていますか。それでは市民には伝わりませんよ」と言いに行くことが一番効果の高い手法かもしれませんね。非常に過激な案で、難しいとは思いますが、そこまでやったら本当に動き出すかもしれませんね。

委員： こういった審議会や委員会を開催するにあたって、多くの関係部署の代表に来てもらう自治体もありますよね。先進的な取り組みを目指して、枚方市でもやっていければいいなと思っています。

副部会長： 補助金は、一般に普及するまでの財政的な支援ですので、広く皆さんに普及させるためのワンステップだと思います。となると、知っている人が得をするというところがありますので、この補助金がいつまであるのかという見通しを皆さんに提示してあげたら、おそらく普及も進むのではないかと思います。

委員： この資料1は、部会報告書の中にこの形に入るのでしょうか。

事務局： 資料1は、現時点でのこれまでの取り組み状況を取りまとめたものですので、これがそのまま部会報告書の中に入ることは考えていません。

委員： 先ほど事業の担当部署の話がありましたが、できれば、この取り組みのところに担当部署があった方がいいと思います。

それと、6ページの都市緑化の推進のところで、生け垣に対する補助や屋上緑化に対する補助が記載されていませんが、補助金がある自治体もあります。枚方市ではないのでしょうか。

事務局： 生け垣に対しての補助制度はありますが、屋上緑化に対する補助はありません。

委員： 緑化を推進していくにあたって、公用地だけでは限界がありますので、民有地の緑化をいかに促進していくのが重要だと思います。

委員： 2ページのCO₂排出量に対して、3ページで電力、都市ガスのそれぞれの使用量が出ているんですけども、特に電力は原単位によってCO₂排出量が変わると思いますので、CO₂の見える化という意味からも、それぞれの使用量の横にCO₂排出量の数字があると、原単位でどう変わるのかということがもう少し意識できるかなと思います。

3ページのグラフを見ると、平成19年度の電力使用量は増えていますが、都市ガス使用量は減っているのので、電力が寄与している割合が大きいということがわかりますが、それぞれのCO₂排出量を横に示すとよりわかりやすいのではないかと思います。

あと、3ページには電力と都市ガス使用量だけしかありませんが、灯油とかのデータを入れることは難しいということですよ。

事務局： 電力と都市ガス使用量以外は難しい状況です。

委員： 灯油などから電力や都市ガスにエネルギー源を変えてもらうと、CO₂排出量が減るということもありますので、可能であれば他のエネルギー源も入れていただけた方がいいかなと思います。

もう一つが、いろいろな施策を実施することで、CO₂排出量が実際にどれくらい減るのかを提示することができれば、小さい数字になるかもしれませんが、インパクトがあるのではないかと思います。

先ほども話に出ていたとおり、電力の原単位とか、景気の動向とか、気温とかによって、おそらく CO₂ 排出量は増減するところがあると思います。打ち水や緑のカーテン、太陽光発電の導入などの取り組みというのは、市民ができる小さなことをコツコツやって、少しでも枚方市の CO₂ 排出量を減らしていこうということだと思いますので、それぞれの取り組みがどれくらいの CO₂ 排出量の削減につながっているのかというのがわかれば、言葉よりもっと市民に浸透するのではないかと思います。それぞれの取り組みの効果として、CO₂ 排出量がどれだけ減ったかを入れるのは、かなり難しい作業です。しかし、そういった CO₂ 排出量の削減効果を提示することは有効な手法だと思いますので、可能な範囲で検討していきたいと思います。太陽光発電の導入については、効果を数値で予測することは可能であると思われまますので、削減効果を提示していきたいと思います。

事務局：

部会長：

次に説明をいただく参考資料 1「枚方市役所 CO₂ 削減プランの平成 22 年度実績」では、市役所における電気、都市ガス、灯油などのエネルギー使用量を把握した上で実績を算定していると思います。おそらく、先ほどのご意見は、CO₂ 排出量の削減が市役所のようにわかっているといということですよ。

委員：

その通りです。

部会長：

実行計画（事務事業編）に相当する「枚方市役所 CO₂ 削減プラン」では、温室効果ガス排出量の算定方法が確立していますので、市役所全体についてはある程度数値化することはできますよね。それから、施策の CO₂ 排出量の削減効果については、数値を示している自治体もありますので、新たな計画を策定する際は、そのあたりを考えていくことになるのでしょうか。

事務局：

新たに策定する計画では、そういった数値を可能な限り盛り込んでいきたいと考えております。

委員：

数値については、確かに出さなければいけない部分はあるかもしれませんが、原発とか気候などの影響力は圧倒的に大きいものがあります。例えば、リーマンショックによる不景気があって、また回復してきて、そして、原発事故による影響があつてというように、どこまで数値で表す必要があるのかということを考えてしまうときがあります。

事務局：

電力の排出係数は、確かに温室効果ガス排出量に大きく影響しますが、市レベルではどうすることもできない問題です。大阪府では電力の排出係数を固定した上で、新たな実行計画を策定していく方向で検討を行っていますので、一つの参考にさせていただきたいと考えております。

部会長：

数値では表しきれない重要な部分があるかと思いますが、計画の目標達成に向けて、いろいろな取り組みを行っていくことになっていきますが、た

またま景気の悪化や震災の影響などの外的要因があれば、目標を達成できたとしても、皆さんの取り組みの努力が表れたのかがわからなくなりますので、素直に喜べないということにもなります。

ただ、この部会では「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づいて、実行計画（区域施策編）を策定するということですので、国の策定マニュアルや他の自治体を参考にして、ある程度の目安の数値を持つことができると思います。他の自治体では、目安は持っているものの、実際は打ち水の取り組みとかになってしまっているのも事実です。しかし、目安のようなものが何もないと、どの方向に向かっていいかわからないのも事実ですので、そういった数値的なものも必要になるのかなと、私自身は理解しています。

委員： いろいろな対策の中で、打ち水の取り組みを考えてみますと、目標としては、「市内全域にもっと広めていこう」となると思います。少なくとも何か所で、これくらいの面積に打ち水をしたら、その地域の気温が一時的にこれだけ下がることによって、体感温度も下がって、エアコンの使用が抑えられることになり、このくらいのCO₂排出量が減ることにつながるという感じですねというように感じて。でも、現実には打ち水をしたからといって、CO₂排出量の削減に直接的な効果があるかどうかは微妙なところですが、そういう行動を通してエアコンの使用を控えようという気持ちに結び付いて、はじめて成果がでるのではないのでしょうか。実際、私はそういうものかなと思っていますので、一つ一つのこと、あまりきちっとした数値を考え過ぎるのはどうなんだろうと思います。

委員： 打ち水もそうですけど、ドライ型ミストは、確かに近くを通ったら気持ちが悪くなって、暑いときは涼しいなと感じますが、このこととエアコンの温度設定をどうするのかは少し違うのかなと思います。正直「暑いのは我慢しなさい」という思いもあります。

副部会長： 打ち水に関しては、実は結構検証してまして、打ち水をしますと、当然数十分間は皆さん気持ちが良くて、爽やかに感じます。でも、次第に体感に戻るんですね。ただし、打ち水によって建物が冷やされていますので、熱帯夜とか、夜の温度を下げることができます。となると、エアコンを運転する時間が短くなります。

部会長： 例えば、打ち水で枚方市の温度が何度下がりますかといったら、雨を降らすくらいのかかなりの量をまかないと下がらないと思います。しかし、情の部分というのがあって、「ああ、こういう取り組みをすることは素晴らしいことだな」と感じてもらうことで、啓発効果が生まれてくると思います。これでどれくらい減るのかといっても、これは数値化もできないぐらいの話になります。けれども、皆さんの心に訴え掛ける効果も別にあると思います。

- 委員： 打ち水をすることはいいと思いますし、ドライ型ミストもいいと思いますが、結局、目的はエアコンの使用時間を短縮するとか、温度設定を下げるということになるのでしょうか。
- 部会長： そういうメッセージを送るという啓発ですね。
- 委員： 特に、理屈っぽい人には、そういうのをはっきり打ち出したらいいと思います。
- 部会長： ですから、効果がないのでやめておきましょうという議論ばかりではないような気がするんですね。そのことを理解した上で考えていかないと、実際に効果がない取り組みを全部やめてしまったら、光りものがほとんどなくなってしまふことになると思います。
- 委員： 土地利用の変化の中で、東部の里山は減っていませんが、基本的に都市部の水田やため池とかの保全が、生物的な面で非常に重要なものになっています。また、温暖化や暑さに関しても、そういったものを保全していくことが大事なことは皆さん既に知っていると思います。そういった土地がどれだけ減ったかとか、生き物のために守るとかよりも、温暖化防止のために、田んぼやため池を守ろうという方が一般の人には、きっと受け入れやすいんだらうなと思います。そのあたりが非常に大事だと思いますので、この何年間でどれくらい減ったかというところをきっちり押さえていただきたいと思います。それと、今後の対策として、漠然と「里山を保全しましょう」とかというのではなくて、やはり「これだけの水田の面積を確保しましょう」といった具体的なことを考えて欲しいと思います。
- 委員： それに関連して、緑被率の最近のデータはお持ちなのでしょうか。
- 事務局： 緑被率のデータは、今年度末には出る予定です。
- 部会長： 効果を考えると、継続的な打ち水は水田だということもいえますよね。また、緑はいつも水分を蒸散しているわけですから。
- 委員： 緑被率のデータのことですけど、できましたら、その緑被率からゴルフ場を省いていただいたら助かります。
- 部会長： ゴルフ場も実は非常に広大な緑被面積がありまして、蒸発散が活発に行われているんですね。本当は地表面の形状別のとか、材質別の蒸発率を面積に乗じて、どれだけ市内から水蒸気が立ち上って、それが冷却に回っているかということがわかればいいのですが、そういった研究は最近どの程度進んでいるのでしょうか。
- 副部会長： そういったことは、緑被率で計算することができます。ただ、緑被率は減っていることは確かです。緑が減ってコンクリートの建物などの構造物に変わってきているスピードが枚方市は結構速いので、非常に暑くなっているということも言えると思います。以前お話したように、住みやすい枚方市をどうしていくのかというのが、まず一番の基本だと思います。

ますので、やはり夏の暑さを抑えましょうというところから入っていく方が、皆さんにとってわかりやすいのかなと思います。本当は、地球温暖化防止がメインですけれども、そういったところから皆さんにわかってもらうのがいいのではないのでしょうか。

事務局： 現在、緑被率の調査を実施していますが、緑というのを一元的に捉えるのではなくて、緑の種別に面積を積算していますので、利用目的に合わせて、施策に活かしていくことも可能かと思えます。

副部長： ゴルフ場は省くことができるのでしょうか。

事務局： 省くことは可能です。

部長： 被覆表面の材質の違いが都市部の気候にどのような影響を与えるかについて、簡単にシミュレーションできるものなのでしょうか。

副部長： 枚方市は湿度も下がっていますよね。それも緑の減少や水辺の減少などが大きく関係していると思います。

部長： 他の自治体で地球温暖化対策を考えていくときに、施策の羅列はあっても、このような話はなかなか出てきません。けれども、実は一番効いているファクターは土地表面の被覆ではないかなと前から思っています。ですから、そういう意味では、例えば屋上緑化の強化をするとか、土地表面の被覆のことを含んだ計画にすることができたらと思います。

副部長： 枚方市は、他の自治体にはない淀川という大きい水系を持っていますので、そういうのも取り入れた温暖化対策もいいのかなと思います。

部長： 話が非常に膨らんでしまいましたが、ひとまず、この案件についてはここまでとさせていただきます。次の案件にいかせていただきます。また何かございましたら、後ほどご意見等をよろしく願います。では、資料の説明をお願いいたします。

事務局： (参考資料1・2について説明。)

部長： ありがとうございます。ご意見等いかがでしょうか。

副部長： 平成22年度の温室効果ガス排出量は、24年度の目標数値をクリアしています。次の計画を策定していく中で、将来の数値を新たに設定していくということですね。

事務局： その通りです。次の実行計画(事務事業編)を策定するにあたって、新たな目標数値を設定することになります。

副部長： 平成22年度の都市ガスの使用量が基準年度と比べて、東部清掃工場の稼働によって65%増えたとのことですが、ごみの焼却量が減っているはずなのに、どうして増加しているのでしょうか。

事務局： 東部清掃工場が稼働するまでは、焼却灰を埋め立てていましたが、東部清掃工場には焼却灰を溶融するための設備がありまして、その設備で都市ガスを使用しているため大幅な増加となっております。

部長： 東部清掃工場の溶融設備というのは、いつできたのでしょうか。

事務局： 溶融設備も含めて、東部清掃工場は平成 20 年 12 月に本格稼働をしております。

委員： 参考資料 1 の 1 ページのグラフで、平成 19 年度から 20 年度にかけて温室効果ガスの排出量が大きく下がっていますけれども、この理由を教えてくださいませんか。それと、この計画では二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボンの温室効果ガスを対象にしていますが、二酸化炭素以外の温室効果ガスは、どの程度あるのでしょうか。

事務局： 平成 19 年度から 20 年度の削減率が大きい理由としましては、全市域で廃プラスチックの分別収集を開始しましたので、それに伴って、焼却に伴う二酸化炭素排出量の数値が下がっていることが原因です。
平成 22 年度の温室効果ガスの割合につきましては、二酸化炭素起源の割合が 96%、メタンが 0.2%、一酸化二窒素が 3.4%、ハイドロフルオロカーボンが 0.01%ということで、二酸化炭素起源がほとんどを占めている状況です。

委員： 以前に、第二京阪をつくるときに、進捗状況を頻繁に出されていて非常にわかりやすかった記憶があります。都市計画マスタープランには、穂谷川や船橋川の緑道など、いろいろな施策があがっているんですが、その進捗度がわかれば、市民としては非常に興味が出てくると思います。また、第二名神については、建設されるという話がありますが、いつになるのかわかりません。最終的にいつごろできるのかというのがわかれば、非常に興味深く見る人が多いのではないかと思います。

事務局： 先ほども説明させていただきましたけれども、都市計画マスタープランは、もともと枚方市のまちづくりをこうしていこうという都市計画の基本的な考え方を示すプランですので、それを受けて、いろいろな個別計画や施策につながっていくこととなります。
第二名神については、枚方の区間については、現在凍結ということになっていますので、工事は進んでいない状況にあります。

委員： 第二京阪の建設の際は、「緑立つ道」のニュースが定期的に全戸配布されていましたよね。そういった形で枚方市の施策についても、これはというものをアピールするという意味で、参考になるのではないのでしょうか。広報ひらかたにも、ある程度は掲載されているんですけど、そういった形では皆さんにはなかなか伝わらないのかなと思います。

委員： 第二京阪については当時、道路公害の関係で反対運動が非常にあったということで、国交省の浪速国道事務所が積極的に PR されていたということが一つあります。また、それができるだけの実業予算がありましたので、それと全く同じようなことを一自治体の枚方市に求めるのは非常に難しいところがあると思います。最近、自治体のホームページなどで

も、それなりの PR はするようになってきていると思います。それをもっと見やすくする工夫をしてもらえればいいのかと思います。例えば、空気がきれいになったと PR しても、なかなか実感としてわかりにくいと思いますが、ものができていくというのは目に見えてわかることなので、それについては、実際に事業を実施している部署で、いろいろ工夫していただくのがいいのかなと思います。

部会長： ありがとうございます。資料1の中には、都市計画マスタープランの環境にやさしいまちづくりのようなことが入っていませんが、地球温暖化に関連しますので、次の計画にどのような形で取り込むかは別にして、取り込む必要があるかもしれませんね。

他はいかがでしょうか。本日は、議論の中でいろいろなアイデアが出てきたかと思います。それに類する議論になると思うんですけども、残りの時間で、今後の地球温暖化に関する取り組みについての方向性や考え方とか、こういうことを取り入れて欲しいとか、ご自由にご意見をいただけたらと思います。

委員： これまでの取り組み実績をまとめていただいているのですが、例えば、市民の啓発につながるものと、市の所有施設や道路に関係するようなものとは、ちょっと意味合いが違いますので、まとめ方として分けた方がいいのではないのでしょうか。おそらく、市民に対しては、着々と取り組みを進めていくことは難しいと思いますが、市の所有施設に対しては、比較的取り組みを進めやすい面もあると思います。市民に対しては、もっといろいろな仕掛けを考えていかなければいけないと思いますので。

部会長： ありがとうございます。他の皆さんはいかがでしょう。

委員： 最近では、他の会議やセミナーに行っても、紙ベースで資料をもらうことが少なくなっています。私の会社でも、事前に会議の資料が送付されますが、当日の会議ではポイントだけを説明して、質疑応答をしています。本日の会議資料も事前に送っていただきましたが、資料が少し変更されていますので、会議当日に説明するのであれば、その変更点とポイントだけを説明していただいてもいいのかなと思います。最初に丁寧に説明していただいたので、非常にわかりやすかったと思うんですけども、それなら何のために事前に資料を送っているのかということになります。ですので、会議時間の短縮と、皆さんの意見を引き出すために、そういう事務的なことはできるだけ圧縮して欲しいという要望があります。また、資料は3日か4日ぐらい前には事前に送っていただくことができれば、おそらく仕事の合間に読むことができます。会議当日は、資料を忘れた人のために資料を配るということで、資源の無駄にならないように配慮して欲しいと思います。その際に、資料を配るのであれば、最近、白黒のペーパーはあまり見たことがなくて、白黒の折

れ線グラフほど見にくいグラフはありませんので、できたら、読むというよりは見せるということで、パワーポイントを活用していただく方が、よりわかりやすいのではないかという気がします。

部会長： ありがとうございます。すぐに対応できるかどうかは別として、皆さんが予習をしっかりした上で会議に出席し、活発な意見を出していただけるのは、非常に素晴らしいことだと思います。ご意見を参考に、会議の運営の仕方を工夫することも考えていきたいと思っています。他はいかがでしょうか。

副部会長： 削減効果が数値として把握できる取り組みとして、白熱球から LED 照明への買い替えが考えられます。各家庭にどのくらいの白熱球があるのかが推計することができれば、枚方市における削減効果がわかると思いますが、難しいのでしょうか。

委員： 市民向けのアンケート調査票に、白熱球がありますかという設問があったと思います。そこから、全市域的な数字を推測することができればいいのですが。

副部会長： 将来的なことを考える際に、そういったわかりやすい数字を出すことができれば、いいかなと思います。

委員： 計画を策定するにあたって、皆さんの気持ちに訴える啓発的な部分と、もう少しがんばって打っていかねばいけない施策をきちんとすみ分けて論議を進めていくことが大事だと思います。これまで実施してきた施策を提示していただきましたが、「これに関しては取り組んでいるかもしれないけど、こんな取り組みも実施したら」という思いが、きっと皆さんあると思いますので、そのあたりをきちんと論議できたらなと思います。LED 照明やエコドライブの普及など、今後の施策として新たに何が必要で、現行の施策の中で強化していかなければいけない部分はどこなのかなどを、考えないといけないと思います。

部会長： 行政が使う用語としては、重点施策ということですね。費用と効果と難易度に合わせて、優先順位を決めてから、まずこの施策に取り組みましょうといったことが見えてくればいいなということですよ。他はいかがでしょうか。

委員： これから策定しようとする計画は、市民の方にも見ていただけるものなので、市民が読みやすく、パッと見てわかりやすいものが望ましいかなと思います。地球温暖化がそのまま進むと、なぜいけないかということをもう一度きちんと整理して市民にアピールする部分も計画に盛り込んでいただきたいと思っています。

現在、何%の CO₂ を削減しましたとか、地球規模でやっていますが、現実問題として、すぐに CO₂ 排出量をゼロにしても地球温暖化は止まらないんです。身近な例でいったら、これまで水道の蛇口をいっぱいひねっ

ていたのを、蛇口を絞ることで、ちょびちょび出しましょうという話です。そういう現実的なことまでは、たぶん市民の方には見えていないと思いますので、「皆さんコツコツできることをやりましょう」という訴えにつながるようなものを出していきたいなと思います。

部会長： ありがとうございます。計画書ができたときに、市民にわかりやすい形で、啓発的な部分も含めておいて欲しいということですね。

委員： 今日がアンケート調査の締め切り日ですよ。その結果を集計されて、分析できるのはいつごろになるのでしょうか。

部会長： ただ今のご質問も含めまして、事務局から今後のスケジュールについて、簡単にご説明をお願いします。

事務局： 3月下旬に部会の開催を予定しておりますが、その時点で、アンケート調査の分析結果をお示しすることは難しいと考えております。分析結果につきましては、5月ごろにご報告させていただくことになると思います。

委員： 単純集計くらいだったら出せるのでしょうか。というのは、アンケート結果の数字を見ながら、考えた方がいいこともあると思いますので。

事務局： 現時点ですべてのアンケート票を回収できているわけではありませんので、何とも言いにくい部分もありますが、できるだけ整理して出していきたいと思います。

委員： 3月下旬の部会の議題としては、どういったものを考えているのでしょうか。それによって、アンケート結果が必要になるか、ならないかというところがあると思います。

事務局： 3月下旬の部会につきましては、温室効果ガス排出量の現況推計と将来推計について考えております。

部会長： 3月下旬の部会の日程はどういたしますか。

事務局： 本日中にメールで日程調整をさせていただきますので、日程が決まり次第、連絡をさせていただきます。年度末ということで、大変お忙しいとは思いますが、ご出席をよろしくお願いいたします。

部会長： 資料を早目に送って欲しいという委員からの発言もありましたので、事務局は大変かとは思いますが、次回の部会では、その辺をお含みいただいて、事前に資料の作成、配布をよろしくお願いいたします。
他によろしいでしょうか。

委員： 次回は、現況推計と将来推計ということで、数値的な話に重点を置いていくということですが、だいたいの計画の構成と伺いますか、計画の取りまとめの方向性をお示ししていただいた上で、議論を進めていく方がいいと思います。

部会長： 出来上がるイメージみたいなものですね。

委員： そうですね。そうでないと、どこにターゲットを絞って、どの段階で、

どういう意見を重点的に話しさせてもらったらいいのかということ
を迷ってしまいますので、是非お願いします。

部会長： おっしゃるとおりですね。だいたいの章立てというのでしょうか、その
中で、この会議では、この辺を議論していますよということがわかれば
いいということですね。

事務局： 次回は、計画の大きな構成のようなものをお示しさせていただきますが、
今後の予定といたしましては、次回が温室効果ガス排出量の現況推計と
将来推計、5月以降に中長期目標などについて審議していただくことを
想定しています。

委員： そうしましたら、先ほど意見が出ていました課題、今まで取り組まれて
いてネックになってきたことの整理というのは、どの段階になるの
でしょうか。その辺があると、非常にいろいろと考えやすくなるので、是非
お願いしたいと思います。

事務局： できる範囲で整理していきたいと考えておりますが、次回の部会では、
正直難しい部分もありますので、とりあえず、温室効果ガス排出量の現
況推計からさせていただきたいと思います。

部会長： それでよろしいですか。

委員： わかりました。それと、だいたいの日程は提示していただいている
が、どう組み立てていって、最終的にどのように行き着くのかという
ステップアップのところがわかりにくい感じがします。

部会長： この会議全体のロードマップが見えないので、今どこにいるのかがよく
わからないということですね。そうしたことも含めまして、次回は、結
構細かい話が出てくるかと思われまので、資料の準備だけでも大変か
と思いますが、事前に配布できるようにしていただけるとありがたいと
思います。

<閉 会>

部会長： それでは、本日もいろいろなご意見や前向きなご提案をたくさんいた
だきまして、どうもありがとうございました。